

出品目録

No.	資料(作品)名	員数	所蔵先(保管者)	展示期間	No.	資料(作品)名	員数	所蔵先(保管者)	展示期間
第1章 福井藩松平家の城下町「福井」									
1	福井城下眺望図	一巻	福井市春嶽公記念文庫	当館蔵	36	御所と二条城	一舗	平井聖氏蔵	全期間
2	足羽社頭の図	一幅	当館蔵	全期間	37	山城国二条城	一舗	松平文庫 福井県立図書館保管	全期間
3	福井城下絵図(複製)	一幅	原本 松平文庫 福井県立図書館保管	全期間	38	京の名所と賑わい	一舗	平井聖氏蔵	全期間
4	福井城下絵図	一舗	当館蔵	全期間	39	三条大橋より京都案内図	一舗	平井聖氏蔵	全期間
5	福井城と武家屋敷	一帖	越秀文庫	当館保管	40	三条大橋眺望図	一冊	平井聖氏蔵	全期間
6	福井城旧景 1 御武具藏より天守台趾	一帖	当館蔵	全期間	都名所団会・再撰花洛名勝図会	八冊			全期間
	2 砥木工邸				1再撰花洛名勝図会 東山之部 六(音羽山清水寺)		京都市歴史資料館蔵		
	・九十九橋と馬成し				2都名所団会 左青龍 卷之三(蓮華王院三十三間堂)		京都市歴史資料館蔵		
7	越前国古今名蹟考 足羽郡下	一冊	福井県立歴史博物館蔵	全期間	3都名所団会 後玄武 卷之六(金閣寺)		京都市歴史資料館蔵		
8	爆竹調馬之図	一巻	越秀文庫	当館保管	4再撰花洛名勝図会 東山之部 四(東山慈照寺)		松平文庫 福井県立図書館保管		
第2章 天下の城下町「江戸」									
1	江戸から江戸に行く				5再撰花洛名勝図会 東山之部 六(大仏殿)		松平文庫 福井県立図書館保管		
9	江戸福井往還図屏風 右隻	六曲一双	福井県立歴史博物館蔵	全期間	6再撰花洛名勝図会 東山之部 一(紙林園夜桜)		松平文庫 福井県立図書館保管		
	左隻				7都名所団会 平安城 卷之二(紙團会)		京都市歴史資料館蔵		
2	「大江戸」の風景				8再撰花洛名勝図会 東山之部 四(大文字送火)		京都市歴史資料館蔵		
	・巨大都市「江戸」を眺める								
10	○ 江戸一目図屏風	六曲一双	津山郷土博物館蔵	※2					
11	江戸景観図	一面	国立歴史民俗博物館蔵	※3					
12	江戸一覽図	一幅	平井聖氏蔵	全期間					
13	分間江戸大絵図	一舗	福井市春嶽公記念文庫	当館蔵					
	・江戸城と大名屋敷								
14	江戸城と周辺大名屋敷絵図	一舗	平井聖氏蔵	全期間					
15	江戸本丸表向絵図	一舗	平井聖氏蔵	全期間					
16	泥絵(霞ヶ関)	一枚	平井聖氏蔵	全期間					
17	中之郷福井藩江戸屋敷絵図	一幅	酒井康氏蔵	当館寄託					
	・江戸の名所と賑わい								
18	江戸名所跡跡繁花の地取組番附	一枚	国立歴史民俗博物館蔵	全期間					
19	江戸名所一覧双六	一枚	福井県立歴史博物館蔵	全期間					
20	浅草寺境内図屏風	八曲一双	越秀文庫	当館保管					
21	隅田川両岸一覧	二巻	平井聖氏蔵	全期間					
22	東都名所 両国繁栄河開之図	三枚続	国立歴史民俗博物館蔵	前期					
23	東都名所 日本書紀並に魚市全国	三枚続	国立歴史民俗博物館蔵	後期					
24	江戸名所 1飛鳥山花見之図	二枚	国立歴史民俗博物館蔵	前期					
	2両国花火			後期					
25	江戸名所団会 一・十四	二冊	松平文庫 福井県立図書館保管	全期間					
	1 江戸名所団会一(駿河町三井呉服店)								
	2 江戸名所団会十四(神田明神祭礼)								
26	江戸日本橋の図	一冊	平井聖氏蔵	全期間					
27	狂歌東都花日千両 戯場の部	一冊	国立歴史民俗博物館蔵	後期					
28	眼鏡絵	一帖	福井市春嶽公記念文庫	当館蔵					
	反射式覗き眼鏡	一点	福井市春嶽公記念文庫	当館蔵					
3	江戸を襲った大火と地震								
29	目黒行人坂火事絵	一巻	平井聖氏蔵	全期間					
30	安政二年大地震附焼場所	一舗	松平文庫 福井県立図書館保管	全期間					
31	大江戸一覧	一舗	國立歴史民俗博物館蔵	全期間					
第3章 上方の大都市「京」と「大坂」									
1	福井から京・大阪に行く				○は岡山県指定重要文化財 ◇は大阪市指定文化財				
32	京阪街道一覧	一巻	福井市春嶽公記念文庫	当館蔵					
2	花の都「京」の風景								
	・「京」の都を眺める								
33	洛中洛外図屏風 右隻	六曲一双	大阪城天守閣蔵	前期					
	左隻			後期					
34	花洛一覧図	一舗	京都市歴史資料館蔵	全期間					
35	京都指掌図	一舗	京都市歴史資料館蔵	全期間					

関連イベント

講演会

①4月14日(土)「江戸時代の上方に暮らす」
■講師／大阪歴史博物館学芸課長 大澤研一氏

②4月21日(土)「大江戸はいかに描かれてきたのか」
■講師／国立歴史民俗博物館研究部教授 大久保純一氏

③4月30日(月・祝)「江戸城の大奥」
■講師／昭和女子大学名誉学長 平井 聖氏
※いずれの講演会も14:00~15:30
無料・先着順(80名)
場所／当館 講堂

ギャラリートーク
(担当学芸員による展示解説)

■日時／4月 8日(日)
4月29日(日)
5月 6日(日)
すべて14:00~14:50
※観覧券の購入が必要となります

●展示期間
前期／3月24日(土)~4月15日(日)
後期／4月17日(火)~5月6日(日)
※1: 4月3日(火)~4月15日(日)
※2: 3月24日(土)~4月2日(月) 4月17日(火)~5月6日(日)
※3: 4月3日(火)~4月15日(日) 4月17日(火)~5月2日(水)

「展示解説シート No.112」
平成30年3月24日発行

福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489
担当：印牧信明 印刷／小川印刷(株)

江戸・京・大坂と 城下町福井

- 主催／福井市立郷土歴史博物館
- 会場／企画展示室
- 会期／平成30年3月24日(土)~5月6日(日)
- 休館日／4月16日(月)

江戸時代の歴史に関心が高まる中で、当館では城下町「福井」と「三都」(三ヶ津)と称される巨大都市「江戸」と上方の大都市「京」「大坂」を取り上げた特別展を企画いたしました。

この展示会は、都市を描いた絵画資料を中心に、それぞれの都市の魅力を紹介するものです。展示された屏風や絵巻、絵図や浮世絵など、さまざまな資料を通して、当時の人々が各都市にどのようなイメージを持ち、憧れていたのか、その魅力を感じ取って頂ければ幸いです。

第1章 福井藩松平家の城下町「福井」

天正3年(1575)に織田信長は重臣柴田勝家へ越前8郡を与え、勝家は足羽川と北陸道が交わる交通の要地、「北庄」(後の福井)に城を築いて城下町を整備した。

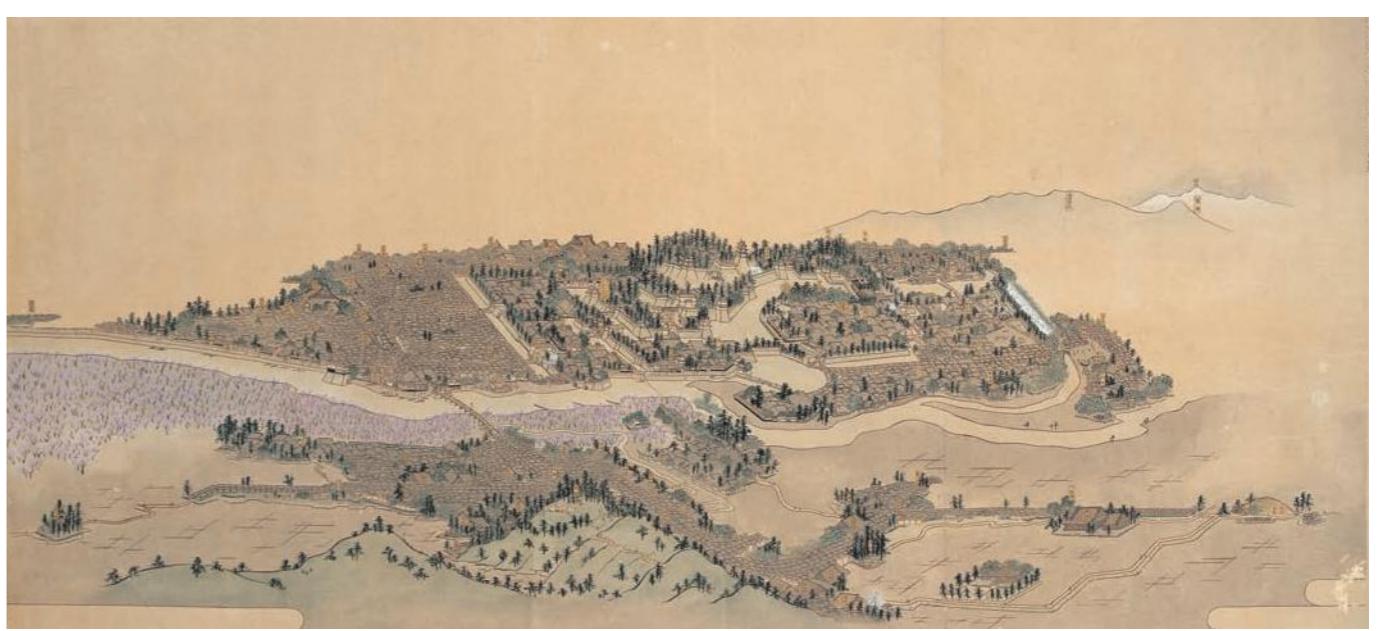
慶長5年(1600)の関ヶ原合戦で徳川家康の率いる東軍が勝利すると、次男結城秀康は父家康から越前国68万石を拝領して、初代福井藩主となり、翌年から福井城(当時の名称は北庄城)の大修築を開始した。城郭は福井藩松平家の居城に相応しく、北陸の諸大名の中でも最大規模を誇った。

大大名の城下町として、越前の政治・経済・文化の中心として繁栄した「福井」は、その後福井藩の領知高が半減されたことで、武家人口が減少するなど、大きな影響を受けたが、幕末には3万2000人余の人口を抱える全国有数の城下町として発展した。

この章では、主に江戸後期から幕末頃の「福井」の都市景観と、その名所や賑わいについて紹介する。



越前国古今名蹟考 足羽郡下 福井県立歴史博物館蔵



福井城下眺望図 福井市春嶽公記念文庫 当館蔵

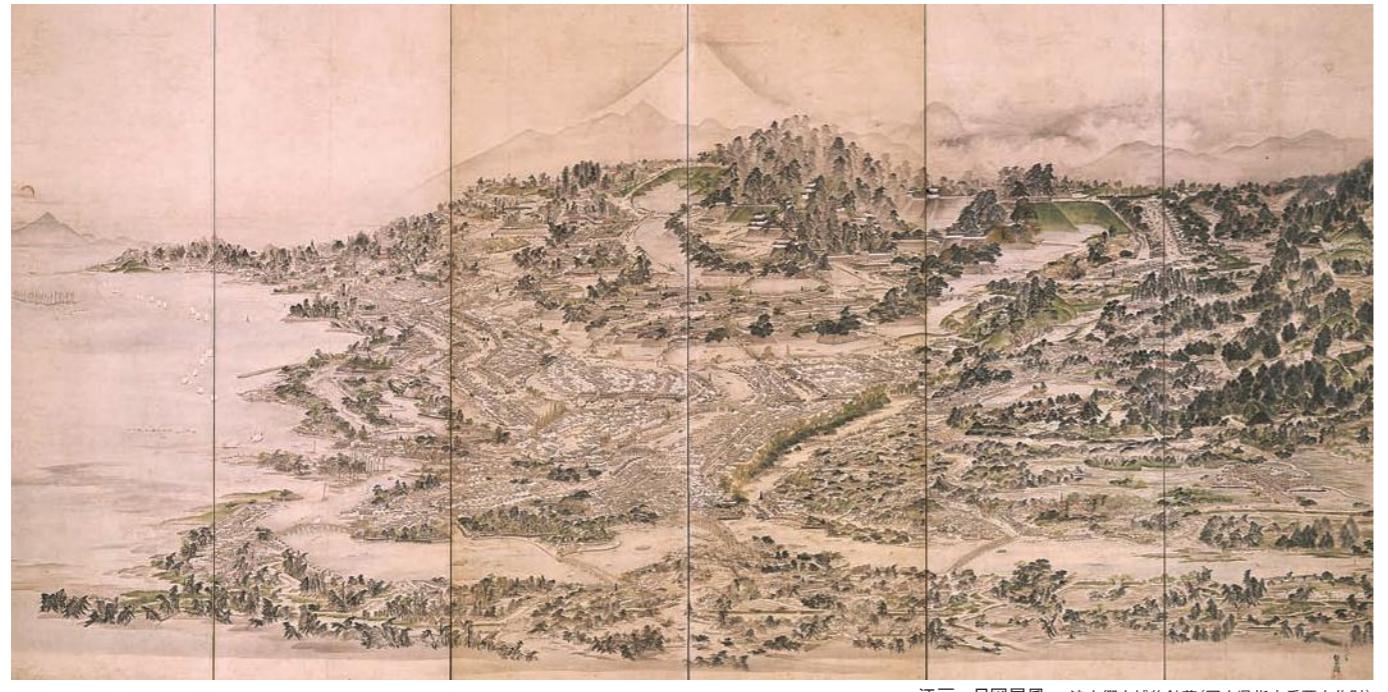
第2章 天下の城下町「江戸」

室町時代に陸上・水上交通の要衝の地にあった「江戸」は、太田道灌によって城館が整備され、戦国期には後北条氏の支城として発展したとされる。天正18年(1590)に徳川家康が入府すると、徳川氏の拠点として城郭の拡張・整備に着手した。慶長8年(1603)に家康が征夷大將軍に任命され、この地に幕府が開かれると、政治的中心としての重要性が高まり、地方の城下町から天下の城下町へとその性格を大きく変化させることになった。

家康から3代将軍家光の時代にかけて、諸大名を動員した天下普請による江戸城や江戸の町の建設が進み、諸大名や旗本の屋敷も設けられた。明暦の大火によって江戸城と江戸の町は一旦は焼失したが、町の開発と拡大は続き、やがて「八百八町」とも俗称されるようになる。

18世紀前半に江戸は、武士・町人など100万人を越える巨大都市に発展し、18世紀後半には「大江戸」と呼ばれるようになつた。政治や経済だけでなく文化的にも成熟を遂げた都市となり、江戸の文化が花開いた。

この章では、主に江戸後期から幕末にかけて描かれた「江戸」の都市景観と、その名所や賑わいなどを紹介し、他にも都市を襲った大火や地震などの災害について注目した。



江戸一目図屏風 津山郷土博物館蔵(岡山県指定重要文化財)

第3章 上方の大都市「京」と「大坂」

平安時代以降、「京」(京都)には朝廷がおかれて、室町時代には幕府も開かれるなど、長らく日本の政治・経済・文化の中心であった。天下人豊臣秀吉によって近世都市へと改造され、それによって公家町・武家町・寺町が形成された他、市街の町割を実施し、天正19年(1591)には洛中の周囲に総構として御土居が築造された。また、徳川家康も二条城の造営などを行ったが、政治的中心は上方から江戸へ移った。但し、幕末には政治情勢の変化から再び「京」の政治的重要性が高まった。

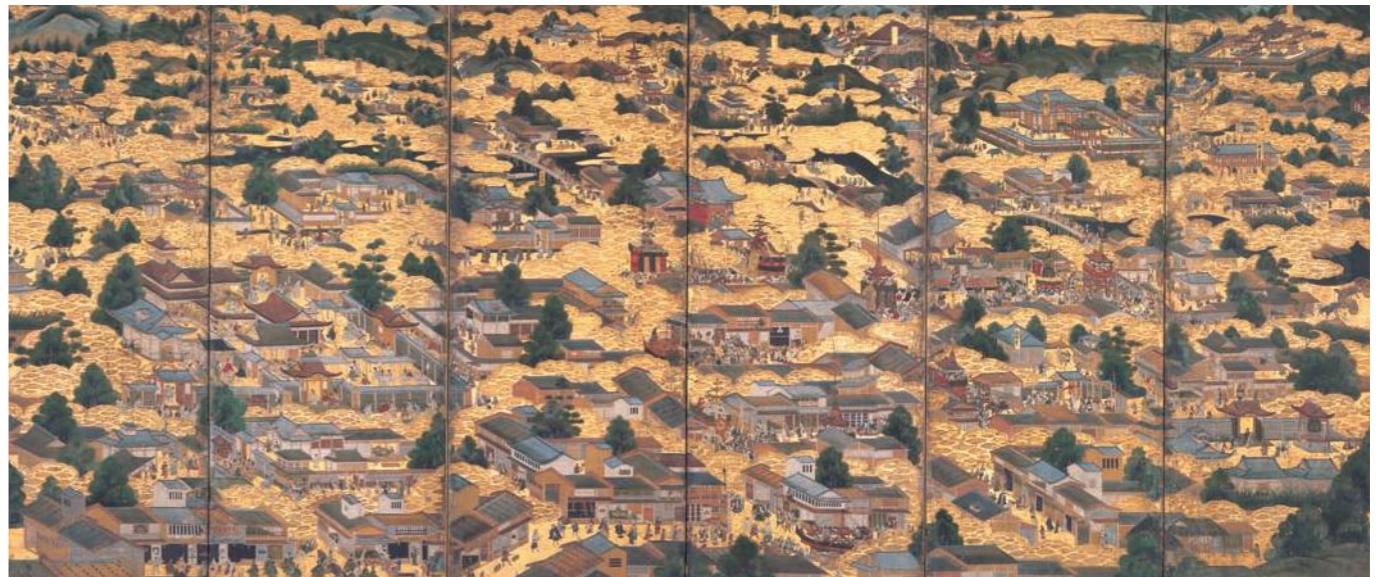
「京」には諸宗派の本山も集まっており、寺院の数も多かったことから「八百八寺」と俗称された。神社仏閣など名所・旧跡を訪れる人も多く、江戸後期になると名所の案内書や案内図も出版され、観光都市化した。なお、「京」は高級な手工業品を生産する産業都市でもあった。

戦国期の「大坂」には石山本願寺の寺内町が形成されていたが、秀吉がその跡地に統一政権の拠点として大坂城を築城すると天下人の城下町として発展した。慶長20年(1615)の大坂夏の陣で城と城下町は焼失したが、陣後に徳川幕府は天下普請によって大坂城を再築して町を復興させた。

大坂市街には次々と堀川が開削され、水の都と呼ばれるに相応しい町が形成され、大川(淀川の支流)以北の天満や以南の船場などを中心とする市中には、「大坂三郷」(天満組・北組・南組の町組)が成立した。なお、これらの町々には多くの橋が架けられていたことから、「大坂」は「八百八橋」とも俗称される。

また、「大坂」は全国各地と海運によって結ばれ、米や商品が集散する中央市場が形成され、諸藩も蔵屋敷を設けるなど、「天下の台所」と呼ばれる商都として繁栄した。

この章では、主に江戸初期並びに江戸後期から幕末にかけて描かれた「京」と「大坂」の都市景観と、その名所や賑わいなどを紹介し、特に「京」では松平春嶽の京都滞在について取り上げ、「大坂」では都市の経済発展について着目した。



洛中洛外図屏風(右隻) 大阪城天守閣蔵



大坂市街図屏風 大阪城天守閣蔵